

# 2022 森川美穂 未来編

こうしているうちに、すでに森川美穂2022の新曲が集まってきています。  
私の手元には、4曲の楽曲が揃っています。

## <山川恵津子 作曲作品 M-1>

都会のトワイライトゾーンに迷い込んだような、独特で不思議な世界です。  
新しい世界は、誰かの頭の中で生まれ、森川美穂に憑依し変化していきます。  
心がざわつくような新感覚の歌が生まれます。

## <吉田みさお 作曲作品 M-1>

サスペンスドラマのテーマ曲のような、歌謡性のある濡れたメロディーをお願いしました。まだ、裸のメロディーだけの状態です。このメロディーに強い言葉を合わせて聞く  
ひとの心を鷲掴みにして別世界へ連れていきたい。アレンジという衣を着せた時、どんな  
テンションで森川美穂は歌うのだろうか？

## <都志見隆 作曲作品. M-1>

メロディーだけで涙が出てくるのは、歳をとって涙腺が緩んだからでしょうか？メロディー  
がすでに何かを歌いたがっています。松井五郎さんは、メロディーが欲しがっている  
言葉を捕まえて、歌詞にする魔術師のような作詞家です。静かに美しくメロディーが流  
れ始めます。いつの間にか映像が頭の中に描かれ、森川美穂の歌声とともにストーリ  
ーが始まります。久しぶりに、壮大なバラードになりそうです。

## <都志見隆 作曲作品. M-2>

今年のスタートは、濃厚接触者でライブ中止スタートでした。こんな世の中だからこそ、  
明るい歌を作りたい。そんなことを思って、都志見さんはアメリカンテイストのカラッと  
した曲を作ってくれました。特別な切り口ではありませんが、森川美穂の歌としては、これ  
までにはない、新しい切り口の歌になると思います。森川ねーさんが、背中をパンと叩  
いて勇気をくれる、そんな歌になりそうです。

### <スキヤット後藤 作曲作品 M-1>

今回、作詞を先行した作り方で、1曲作ってみたいと考えています。その理由は、メロディーに言葉をのせるのではなく、ある“特殊な言葉”にメロディーをつけてみたいと思ったからです。松井五郎さんに、この意図とともに、作詞をまず発注いたしました。

私の発想は、悪魔くんの「エロイムエッサム」でした。もっと可愛く言えば、ひみつのアッコちゃんの「ラミパスラミパスルルルル」や「テクマクマヤコンテクマクマヤコン ※※になーれ!」です。もっと遡れば魔法使いサリーの「マハリクマハリタヤンパラヤンヤンヤン」となります。もちろん、アニメソングを作るつもりはありません。発想の原点がここにあるだけで、サウンドはもっとぶっちぎりにかっこいい森川サウンドに仕上げるつもりです。

発想としては、このように、もう数十年この歌やアニメを聴くことも見ることはないのに、記憶の底にしっかりと長期記憶として定着している意味もわからない「コトバ」、...ここに興味があつたのです。「コトバ」は、音の羅列です。この組み合わせに、人間は意味を持たせてきたのです。「テクマクマヤコン」は変身するとき、そして変身する姿から戻る時には「ラミパスラミパスルルルル」と、これは言葉の意味ではなく、現象の意味を持たせたわけです。

このように、脳に張り付く言葉を使って、呪文のような言葉を歌う作品を作ってみたい。歌詞だけでは、なんとも意味不明なのですが、これが松井さんの魔法=行間を聞き手が膨らますという秘密の呪術により、それぞれの脳内でそれぞれが化学変化を起こさせて、その特殊な「コトバ」は勝手に膨らみ脳内を占領します。もちろん、その魔法使いは森川美穂ということになります。歌詞が先にあり、その文字数を守りながらメロディーを作るのは、とても大変です。イメージは広がりますので、方向性としてどんなメロディーや世界観を作りたいかは、作詞に触発される分やりやすいのですが、文字数やメロディーの構成については、歌詞そのものに縛られることとなります。それを取り入れながら、ポップな作品にするのは、とても大変なのですが、そこも松井五郎さんの百戦錬磨の導きによりクリアできるはずだと踏んでいました。

さて、こんな超難問を投げかける相手は誰になるかと申しますと、スキヤット後藤さんです。かれこれ、1ヶ月はかかったでしょうか。まちに待っていたメロディーが昨日、手元に届きました。お願いしたイメージを踏襲しながら、さまざまな意図が盛り込まれているデモテープでした。森川バンドで録音したら、最高だと思える作品です。

スキヤットさんは、前作「推定無罪」の録音の時に、スタジオに立ち会ってくれていたので、ミュージシャンたちの力量やプレイスタイルをその時に確認しています。なので、そのミュージシャン情報も、体の中に入っていたのでしょうか。その総合的な感覚がしっかりと反映されて、さらに、呪文を盛り上げてくれているメロディーとなっていました。プロってすごいですね。今年も、一步、また一步と、森川美穂のNew Historyの素がこうやって、密かに生まれています。

### <羽場仁志 作曲作品 M-1>

アルバム「I・N・G」では、あいかわらず素敵なバラードを書いていただきました。そして佐藤純子さんとのコンビネーションは、こちらもまた相変わらずとてもいい。人と人の相性や、目に見えない繋がりがこうして森川美穂作品を生み出していきます。

森川美穂は、だれとも会うことがなくても、その存在を感じ、作家たちの胸の中では、記憶の中にいつでもその声が響いています。その「響き」をメロディーにしたり、歌詞にしたりしているのでしょう。

今回、羽場さんへのオーダーは、ミディアムのメジャーソングが欲しいとお伝えしました。これだけでは、わかりにくいので、そのテイストとして、なつかしい歌ですが、The Banglesの「Eternal Flame」を参考にあげオーダーしました。

こうして参考にあげる曲は、作曲を依頼する相手を選びます。例えばこんなムードの曲とわたしても、人によっては、だったら、なんで私にオーダーするのかな?とか思われることもあります。作曲家のもっている感性を理解しておかないと、的外れなオーダーになる場合もありますし、そもそも、前提イメージを嫌う場合もあります。

私は、長年のつきあいも含めてなので、このような方向性をお願いしましたが、そもそも森川さんをよく知っている方ですから、オーダー方向にしばられなくても、羽場さんの感覚で今の森川美穂に歌わせたい方向性があれば、書いてみてほしいと伝えてありました。正直に言えば、森川さんにあう作品ならどちらでもいいんです。

ただ、書くほうも、どこに向かって書けばいいのか?西に向かうのか?東へ向かうのか?歩きだす方向くらいは知りたいわけです。どこに行ってもいよと言った上で、演歌があがってきたら困りますので、一応、いく方向を示し、美しい夜明けを見たい・・・とか言ってみるのです。とにかく結果としては、すごくいいメロディーがあがってきました。ありがたいです。

そして、佐藤純子さんへそのままお願いしました。またもや愛情たっぷりの名曲が生まれます。信頼できる作家陣がこうやって、いつも森川美穂を支えてくれます。そして森川さんは歌うことで感謝を伝えていきます。このエネルギー交換こそ、無限エネルギーですね。森川さんは幸せ者です。

今年アルバムを楽しみにおまちください。レコーディングは、まだ予定ですが7月16～18日に予定しています。今年も、レコーディング応援プロジェクトをたちあげさせていただきます。見学会をする場合は、また追って連絡させていただきます。

## <山川恵津子作曲作品 M-2>

またもやすばらしい作品が上がって来ました。この作品は作詞を先行して、松井五郎さんに書いていただきました。

森川美穂のModern Historyにおける代表曲は「ビニールの傘」でしょう。この作品から新しい森川ワールドが始まりました。松井五郎×山川恵津子×森川美穂で生まれたマイナー曲の代表曲が「ビニールの傘」だとすると、メジャー曲の代表ポップスを聴いてみたい。山川恵津子さんのメジャーの中にある、ほろっとした切なさ、そんな作品を森川美穂の歌声で聴いてみたい。

こんな抽象的なオーダーにたいして、歌詞が先にあるとイメージがしやすいかも、、、ということで、この作品は、松井五郎さんに作詞を先行して書いていただきました。

作詞が上がってきた段階で、森川さんは、とても気に入っていました。その歌詞に、一語一句、言葉のイントネーションのニュアンスまでふくめ、見事にメロディーがつけられています。

言葉とメロディーが同時に生まれたような一体感  
才能とひとことで言ってしまえば、それまでなのですが、素晴らしいの一言につきます。

松井五郎×山川恵津子×森川美穂の思念は、どこかで繋がっている。  
それは、実はぼくらにもつながっている集団的無意識の領域にスルリと入り込んで来て心を震わせます。

制作の進行役ってなんとも説明しにくい仕事ですが、やっていることといえば、あっちにいたり、こっちにいたりしながら、人のエネルギーを集めてくることです。

無から有を生み出すために、水面に小石を投げ込んでみる。  
ポチャンと波紋が生まれ広がります。

森川美穂の歌声をイメージして、それぞれの作家たちが、言葉を、メロディーをゼロから生み出す。ゼロからボンとビッグバンのように、無から有を創造するのは、ものすごいエネルギーが必要です。その「思い」を、集めてまわる。  
ぼくらスタッフは、そんなことをやっているのだらうと思います。

### <羽場仁志作曲作品 M-2>

レコーディングに向けて、羽場さんにもう一曲、作曲を依頼しました。  
それはそれは素敵な曲が上がってきました。

羽場さんの森川への作品は、特に指定しているわけではありませんが、その多くがメジャーKeyの作品であります。羽場さんのメロディーと森川の声のハマリ具合として、それが自然にフィットするのでしょうか。そこで、今回アルバム2曲目のオーダーは、マイナーの曲をいただきたいと依頼しました。

北欧の冷たい空気感を感じさせる世界で、森川美穂の歌謡曲を作りたい。そんなイメージオーダーを出しました。どストライクのメロディーが来まして、森川さんは大喜び。そこに、松井五郎さんが、またもやすごい世界観の歌詞を投げ込んでくれました。

そうですね「ビニールの傘」のその後、、、とでもいうような、刹那的、人生を達観し俯瞰で自分の人生を眺めている・・・そんなクールな歌詞になりました。クールなのに、どろどろしていて、メロディーと歌声が合わさると情熱的。そんな熱さを冷ますような空気感のあるアレンジを、山川恵津子さんへオーダーしました。

今回も、去年同様、森川美穂のさまざまなタイプの歌を聴いていただきたいと作品を用意しました。そして、去年に引き続き、今だから歌いたいセルフカバーもやってみるつもりです。

20代の頃には、まだそんなにピンと来ていなかった、、、みたいなことを、よくMCでも語る森川さん。今、歌ってみたい、セルフカバーも歌ってもらいます。音楽に制限は必要ありません。好きな歌を、今の歌い方で伸びやかに歌声を届けます。

今月からレコーディングが本格的にスタートします。毎年、スケジュールがタイトすぎて、歌に時間を取れなくて、一日に5曲ずつ歌って・・・みたいなレコーディングでしたが今年は、昨年よりは歌に時間を使うことができそうです。

歌に集中できる環境を作り、森川さん自身が納得できるところまでじっくり歌ってもらおうと考えております。

最高の歌声をお届けできるように、プログラムしていきたいと考えております。

今年も、森川美穂の新譜を楽しみにお待ちしております。

### <野崎洋一作曲作品 M-1>

去年は、確かレコーディング3日前にメロディーがきました。今年は、2日前でございます。やる気も、アイデアも、満載の才能、野崎洋一さんですが、スケジュールがタイトすぎるごとと、スケジュールがあると、結局、ギリギリまで考え抜くという方でございます。

西嶋：忙しいだろうから、無理しなくていいけど、どう？

野崎：いえいえ、もう、そりゃもちろん、書かせていただきます。

西嶋：ありがとうございます。じゃ、レコーディングに間に合うといいですね。

野崎：……

西嶋：だってさ、去年から頼んでんじゃん？

野崎：えー、あの一、、、そーですね。。。

西嶋：とにかく、野崎さんが書きたいタイプ大体理解しているから、その枠を残しておきます。発注しながら、楽曲バランスをとっているの、アップメジャーもその枠は空けておきますね。

野崎：が、がんばります。

西嶋：もし間に合わなかったら、打ち込みでバンドなしで、責任をとってください。

野崎：ぜ、絶対、間に合わせます！（小声：たぶん）

そんな会話をしたのは、5月のことでした。もうあとは、放置でございます。レコーディング3日前の昨日(7/13)の段階で、もう難しかったんだなと思いました。まあ、野崎さんの打ち込みのもの、とてもいいので、まあ、いいや。気長に待とうと思っておりました。

本日、14:14 野崎さんから電話が、、、

野崎：えー、えー、その一、西嶋さん、スミマセン、スミマセン、本当にスミマセン

西嶋：ハハハハハハ どうしたの？

野崎：実は、今日、ライブ本番で、、、もう出ないと間に合わないんですが、今、ギリギリまでやっていたんですが、まだアレンジが途中なんですけど、送っていいですか？

西嶋：え？ 出来てるの？

野崎：アレンジがまだ、中途半で、、、

西嶋：メロが出来てるなら、すぐ送ってください！

音楽家である野崎さんは、メロディーとアレンジの両方が組み合わさって完成している作品のため、どうしても、メロディーだけみたいな段階で送らないのです。それにしても、面白い楽曲です。なんか、青空に気球が浮いている風景が頭に浮かびました。

なんというか、メロディーとサウンドがカラフルなパズルのように組み合わせられ構築されています。森川美穂の新しいポップな世界をI・N・Gからスタートさせた野崎サウンドが、今年もお目見えます。松井五郎さんが、このパズルのメロディーに、どんな歌詞を書いてくれるのでしょうか？今年のレコーディング曲はこれで勢揃いです。そして、明後日から、レコーディングが始まります。お楽しみに！

このほかにも、きっとまたバンドメンバーも、時間を見つけて新しい作品を作ってくれると思います。

追い込まれて、ギリギリにならないと、火がつかない野崎さんも、レコーディングの日程を決めれば、おそらくギリギリに書き上げてくれるのではないかと期待しています。

私が若き日の森川美穂を担当していた80年代は、作品はコンペディションで集める場合もありましたが、その多くの作品は方向性をイメージし、狙いをつけてお願いして来ました。ましてや、今、お願いしている作家の皆さんは、80年代から現在までプロとして、どんな荒波の時代でも、作品を作り続けて来た猛者ばかりです。

そして、森川美穂の歌声を聴き続けてくださるファンの皆様がいる、歌手 森川美穂は成立します。

今年も、レコーディングを計画していきます。作品の元としてのメロディーが集まって来ている段階で、イメージを勝手に書いているだけなので全てこれからです。

このようにイメージして、方向性を決めて進んいくわけですが、たまに、想像もしていなかった展開になることもあります。若い頃は、想定外の展開に対応しきれずに、イメージの中に押し込めようとしていたこともありますが、今は、想定外も楽しみながら、、、

「そんな道もあったのか。それなら、そちらに行ってみましょう。」

と、違う道に歩みを進めてみると、想像以上の作品となっていくということも、多く経験しています。所詮、凡人ひとりのイメージの広がりなど、大したことがないのです。

音楽は演奏だけでなく、作品作りにおいてもひとりで作り上げるものではなく、インタープレイで作られられるところに、醍醐味があります。

2022年も、森川美穂の歌声を、さまざまな形でお届けできるように進んでまいります。この【2022 森川美穂 未来編】は、まだ始まったばかりです。